出エジプト記の結晶の学び 第 10 週　復活の中で命の水を飲み、流す

鳥瞰	神のエコノミーにおける神の意図は、生ける水の源泉、源となって、彼の選ばれた民の享受のために彼らを満足させ、神の拡大としての召会を生み出し、神の豊満とならせて神を表現することです。岩を打つことは、キリストの十字架の明確で、全体的で、完全な絵であり、キリストが神の律法の権威によって十字架上で死に渡されたことを表徴します。命の水の源は、神と小羊（贖う神）の御座であり、流れ出てわたしたちの命となる三一の神です。命の水を飲んで流す方法は科学的です。キリストは十字架につけられ、その霊は与えられたので、その岩を再び打って、生ける水を流れさせる必要はありません。モーセは民に対して怒り、誤って岩を二度打ちましたが、わたしたちにとってこれはなんという警告でしょう！	
	真理要点	経験適用
1日	1.「神のエコノミーにおける神の意図」、「神聖な啓示の核心」とは何でしょう？ 2.サマリアの女は生ける水を飲み、真の礼拝を神にささげました。このことについて説明して下さい。	1.神のエコノミーにおける神の意図は、生ける水の源泉、源となって、彼ご自身を彼の選ばれた民の中へと分与して、彼らの満足と享受になることです。この享受の目標は、神の増し加わり、神の拡大としての召会、すなわち神の配偶者を生み出し、神の豊満とならせて神を表現することです。神聖な啓示の核心とは、神がわたしたちを創造し、贖ったのは、彼ご自身をわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちの命となるためであるということです。 2.主イエスがサマリアの女と語っておられたまさにその時、宮にいる祭司たちは形式的に、組織的に、決められた方法で神を礼拝していました。しかし、神はその時どこにおられたでしょうか？　彼はサマリアの女と共におられたのです。彼は戸外で、宮や祭壇から離れた、宗教的な形式や儀式のない所で彼女と会われたのです。
2日	1.わたしたちはこの水を飲めば飲むほど、どのようなキリストの豊富を経験し享受しますか？ 2.出エジプト記第 17 章 6 節で岩を打つことは、キリストの十字架の明確で、全体的で、完全な絵です。このことについて説明して下さい。	1.その霊は、打たれたキリストを通して、裂かれた岩によって予表されるキリストを通して流れます。この流れは、キリストの人性、人の生活、死を含みます。わたしたちは、わたしたちの内側の生ける水の流れによる以外に、主の人性を味わい、経験し、享受することはできません。わたしたちはこの水を飲めば飲むほど、キリストの人性、人の生活、死をますます経験し享受します。 2.この予表において、モーセは律法を表徴し、杖は律法の力と権威を表します。このゆえに、モーセの杖によって岩を打つことは、キリストが神の律法の権威によって十字架上で死に渡され、神の贖いが完成されたことを表徴します。彼の脇は突き刺され、生ける水が流れ出て神の民に飲ませました
3日	1.聖書の箇所を用いて神がわたしたちの岩であること、どのようにわたしたちに対して用意されているかを説明して下さい。 2.出エジプト記第 17 章で、生ける水が岩から流れ出ることが、キリストが肉体となること、人の生活、死を経過することを含むとどのように示されていますか？	1.申命記第 32 章 18 節は神を、わたしたちを生んだ岩として言及しています。これは、わたしたちの岩として、神がわたしたちの御父であることを示します。この岩は生む岩であり、命に満ちています。サムエル記下第 22 章 47 節と詩篇第 95 篇 1 節でわたしたちは、神がわたしたちの救いの岩であることを見ます。さらに、この岩はわたしたちの力（詩 62:7)、またわたしたちの避け所です（詩 94:22)。この岩はわたしたちの隠れ場、保護、おおい、安全保障です。イザヤ書第 32 章 2 節は主について、「荒廃した地にある大きな岩の影」として語っています。 2.聖書はその岩がキリストであったことをはっきりとわたしたちに告げています。神であるキリストが、どのようにして岩になることができたのでしょうか？　これは肉体と成ることと人の生活を暗示しています。岩となるために、キリストは肉体と成り、一定の期間、人々の間で生活しなければなりませんでした。最終的に、彼は十字架上にいたとき、神の律法の権威によって打たれました。このゆえに、第 17 章 6 節は深遠な節です。それはキリストの肉体と成ること、人の生活、死を暗示しています。
4日	1.生ける水の流れ出る行程を説明して下さい。またわたしたちはどのように協力しますか？ 2.流れる水の源は岩でしょうか？御座でしょうか？	1.生ける水の流れは、永遠において御座から始まり、キリストの肉体と成ること、人の生活、十字架を通して継続しました（ヨハネ 4:10、14. 19:34)。そして今や復活の中で流れ続け、神聖な命のすべての豊富を神の民に供給します（啓 22:1-2)。わたしたちが打たれたキリストと一体となるとき、生ける水としての神聖な命はわたしたちから流れ出ます（ヨハネ 7:38)。復活の中で命の水が流れることは、キリストのからだを建造し（Ｉコリント 12:13)、キリストの花嫁を用意するためであり（啓 19:7)、どちらも新エルサレムにおいて究極的に完成します。 2.啓示録第 22 章 1 節によれば、生ける水の源は神の御座です。生ける水の流れを伴う神の御座は、イエスが十字架につけられるはるか前、岩が打たれる前に存在していました。御座から流れ出ている生ける水は、キリストの死の前に流れ始めたのであって、その後ではありませんでした。生ける水がキリストの肉体と成る前に流れていたことを示します。しかしながら、肉体と成ることは、生ける水の流れにおいてさらに進んだ段階でした。
5日	1.わたしたちが飲む地位に置かれたことをどのように証明しますか？またわたしたちはどのように渇いていますか？ 2.命の水を飲むのと、命の水が流れることが並行するとはどういうことでしょうか？	1.バプテスマを通して、わたしたちは飲む地位に置かれました。わたしたちは主の中へとバプテスマされている限り、生ける水を飲む地位を持っているのです。命の水を飲むためには、渇く必要があります。わたしたちが生ける水に渇いているのはあわれみです。この渇きはわたしたちに祈らせ、主と接触させます。わたしたちは単純に、「主イエスよ、わたしはあなたに渇いています。わたしはあなたに触れたいのです」と言うでしょう。 2.　飲むことは流れることにつながり、流れることは飲むことと一つです。ヨハネによる福音書第 4 章 14 節でわたしたちは、命の水を飲むなら、この水はわたしたちの内で源泉となり、湧き上がって、永遠の命へと至ることを見ます。ヨハネによる福音書第 7 章 37 節と 38 節に同じ原則を見いだします。そこで主イエスは、彼を信じ彼から飲む者について、「その人の最も内なる所から、生ける水の川々が流れ出る」と言われました。ですから、飲むことと流れることは一つの事の二つの面です。
6日	1.神のエコノミーにおいて、キリストは既に十字架につけられ、その霊もまた与えられていますが、どのようにして生ける水を流れさせますか？ 2.モーセは民に対して怒ったことで、神の聖なる性質と神のエコノミーに対してどのように違反しましたか？	1.神のエコノミーにおいて、キリストはただ一度だけ十字架につけられるべきです。たしたちは、十字架につけられたキリストから生ける水を受けるために、ただ「杖を取り」、「岩に語る」必要があるだけです。杖を取ることは、キリストの死の中で彼と一体となって、キリストの死をわたしたち自身とわたしたちの状況に適用することです。岩に語ることは、打たれた岩としてのキリストに対して直接、言葉を語ることであり、その霊がすでに与えられているという事実に基づいて、命の霊をわたしたちに与えてくださるよう彼に求めることです。 2.モーセは怒ったことで、神の聖なる性質において、神の民に対して神を正しく代行しませんでした。彼は岩を二度打つことで、神の行動において間違って神を代行し、神のエコノミーの原則を破りました。モーセは、神の聖なる性質と神聖なエコノミーの両方で罪を得ました。このことのゆえに、モーセは神と親密であり、神の友と見られていたにもかかわらず、彼と彼の兄は神の罰を受け、良き地に入る権利を失ったのです。
まとめ	命の水を飲み、命の水が流れる道が科学であることをわたしたちは見る必要があります。わたしたちは既に飲む地位に置かれており、渇き、主に入ってきてもらう必要があります。岩としてのキリストは既に打たれているので、ただ生ける水を呼び求め、霊を用いて霊なる神に接触する必要があります。主が言われたように、歓喜をもって、救いの泉から水をくみます。わたしたちは主に向かって罪を告白し、賛美し、感謝し、呼び求め、歌を歌い、人に福音を宣べ伝え、召会の中で機能を果たす必要があります。モーセは民に対して怒り、神を正しく代表せず、神のエコノミーに違反しました。このことは奉仕者にとって極めて厳粛なことです。	